

大工泣かせのテーブル

竹中大工道具館の名栗仕上げの自動扉を入ると、開放感あふれるガラス張りの多目的ホールとなっています。ここでは木作家たちがつくった木のチェアが置かれ、窓の外に広がる六甲山の雄大な山並みを楽しみながらくつろいでいただけるスペースとなっています。なかでも目を引くのが、チェアがセットされた珍しい杳目の大きなテーブルです。この天板にはモアビという木が使われています。

モアビは光沢があり、接着や塗装も容易なことから、ピアノの外装材やハープの側板としても珍重されています。色合いが均質で虫や摩耗に強く、耐久性にも優

れることから、高級なフローリング等の内装材として使用されます。一般的にモアビは杳目の目立つ樹種ではありませんが、稀にこの天板のような珍しい杳や複雑な縞模様（波浪杳^{はろうもく}）の出る場合があります。仕上がりは非常に美しいものの、堅く加工が極めて困難な大工泣かせの木で、この天板を削った大工によると、鉋を一ひきし終わらないうちに刃が切れ止んでしまうため、一ひきしては研いでというのを途方もなく繰り返し、艶が出るまで磨き上げていったそうです。



テーブル天板

サイズ: L4,220×W1,125~875×D47mm

樹種: モアビ (アカテツ科)

産地: カメルーン、コンゴ、ザイール

